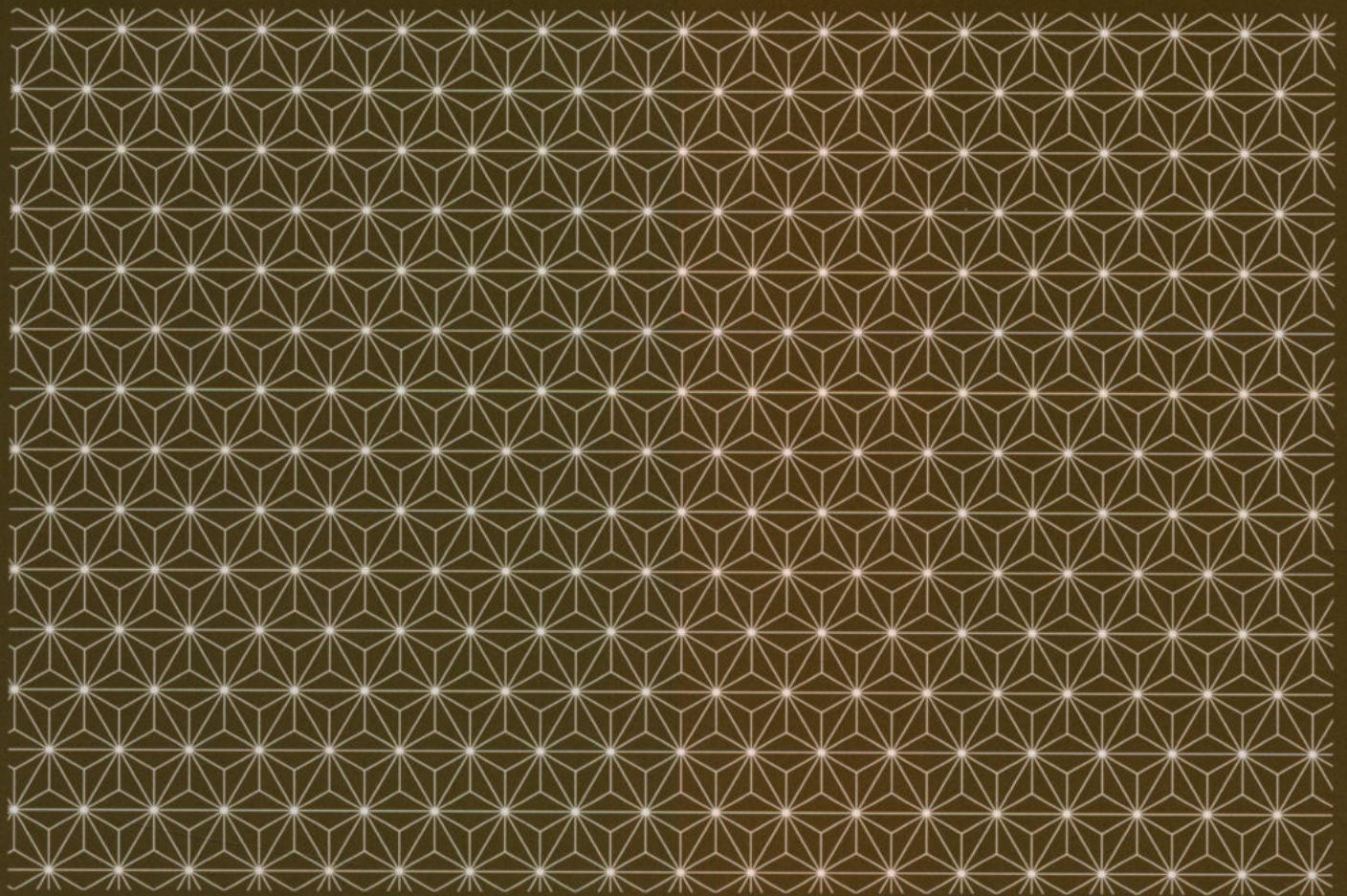


新完全マスター 文法

日本語能力試験

N 1



友松悦子・福島佐知・中村かおり 著

- N1レベルで必要な157の文法形式を学習。
- 問題形式ごとに、必要な知識やスキルを効率的に学ぶ。
- 充実した解説と練習問題で「文章の文法」に対応。

スリーエーネットワーク



新完全マスター 文法

日本語能力試験 N1



友松悦子・福島佐知・中村かおり 著

スリーイーネットワーク

©2011 by Tomomatsu Etsuko, Fukushima Sachi, and Nakamura Kaori

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise, without the prior written permission of the Publisher.

Published by 3A Corporation.

Trusty Kojimachi Bldg., 2F, 4, Kojimachi 3-Chome, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0083,
Japan

ISBN978-4-88319-564-0 C0081

First published 2011

Printed in Japan

はじめに

日本語能力試験は、1984年に始まった、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験です。受験者が年々増加し、現在では世界でも大規模の外国語の試験の一つとなっています。試験開始から20年以上経過する間に、学習者が多様化し、日本語学習の目的も変化してきました。そのため、2010年に新しい「日本語能力試験」として内容が大きく変わりました。新しい試験では知識だけでなく、実際に運用できる日本語能力が問われます。本書はこの試験のN1レベルの問題集として作成されたものです。

まず「問題紹介」で、問題の形式とその解法を概観します。次に「実力養成編」で、三つの問題形式別に、必要な言語知識を身につけるための学習をします。最後に「模擬試験」で、実際の試験と同じ形式の問題を解いてみることによって、どのくらい力がついたかを確認します。

■本書の特徴

- ①旧出題基準1級の文法形式に加え、N1レベルで必要だと思われるものも網羅
- ②文法形式の全体を概観できるように、主観を含む度合いによって大きく三つに分類
- ③やみくもに暗記するのではなく、効率的に整理して学習することを示唆
- ④丁寧な解説と豊富な練習問題（小説、エッセイ等多様な文章から作成）で「文章の文法」を充実

言語を必要とする課題を遂行するためには、言いたいことが伝わる文を、そして、意味のあるまとまりを持った文章を作るための文法的知識が必要です。私たちは日ごろの授業で、試験のためだけではなく、実際の言語生活で役に立つような文法学習はどうあるべきかを考え続けてきました。本書が日本語能力試験の受験に役立つと同時に、日本語を使って学習・生活・仕事をする際にも役立つことを願っています。

本書を作成するにあたり、第一出版部の田中綾子さん、佐野智子さんには鋭いご指摘とご助言を頂きました上、原稿を丁寧にみていただきました。心よりお礼申し上げます。

はじめに

ほんしょ つか 本書をお使いになる方へ VIII

もんだいしょうかい
問題紹介

I	ぶん ぶんぽう ぶんぽうけいしき はんたん 文の文法 1 (文法形式の判断)	2
II	ぶん ぶんぽう ぶん く た 文の文法 2 (文の組み立て)	3
III	ぶんしょう ぶんぽう 文章の文法	4

じつりよくようせいへん
実力養成編

だい ぶ ぶん ぶんぽう
第1部 文の文法 1

I ことがらを説明する☆

1 課	か じ かんかんけい 時間関係	8
	1. ~が早い ^{はや} か	
	2. ~や・~や否 ^{いな} や	
	3. ~なり	
	4. ~そばから	
	5. ~てからというもの(は)	
	6. ~にあって	
2 課	か はん い はじ げん ど 範囲の始まり・限度	12
	1. ~を皮 ^{かわ} 切りに(して)・~を皮 ^{かわ} 切りとして	
	2. ~に至 ^{いた} るまで	
	3. ~を限 ^{かぎ} りに	
	4. ~をもって	
	5. ~といったところだ	
3 課	か げんてい ひ げんてい ふ か 限定・非限定・付加	16
	1. ~をおいて	
	2. ~ならでは	
	3. ~にとどまらず	

4. ~はおろか

5. ~もさることながら

4 課 れいじ 例示 20

1. ~なり…なり
2. ~であれ…であれ・
~であろうと…であろうと
3. ~といい…といい
4. ~といわず…といわず

もんだい 問題(1 課~4 課) 24

5 課 か かんれん む かんけい 関連・無関係 26

1. ~いかんだ
2. ~い^いかんにかかわらず・
~い^いかんによらず・~い^いかんを問^とわず
3. ~をものともせず(に)
4. ~をよそに
5. ~ならいざしらず

6 課 か ようす 様子 30

1. ~んばかりだ
2. ~とばかり(に)
3. ~ともなく・~ともなしに
4. ~ながらに(して)
5. ~きらいがある

7 課 か ふ ずいこうどう 付随行動 34

1. ~がてら
2. ~かたがた
3. ~かたわら

Ⅱ 主観を含めて説明する☆☆

8 課 逆接..... 36

1. ～ところを
2. ～ものを
3. ～とはいえ
4. ～といえども
5. ～と思いきや

問題(1 課～8 課)..... 40

9 課 条件..... 42

1. ～とあれば
2. ～たら最後・～たが最後
3. ～ようでは
4. ～なしに(は)・～なしでは・～なくして(は)
5. ～くらいなら

10 課 逆接条件..... 46

1. ～(よ)うと(も)・～(よ)うが
2. ～(よ)うと～まいと・
～(よ)うが～まいが
3. ～であれ・～であろうと
4. ～たところで
5. ～ば～で・～なら～で・～たら～たで

11 課 目的・手段..... 50

1. ～べく
2. ～んがため(に)
3. ～をもって

12 課 原因・理由..... 52

1. ～ばこそ
2. ～とあって
3. ～ではあるまいし
4. ～手前
5. ～ゆえ(に)

問題(1 課～12 課)..... 56

13 課 可能・不可能・禁止..... 58

1. ～にかたくない
2. ～に～ない・～(よ)うにも～ない
3. ～て(は)いられない
4. ～べくもない
5. ～べからず・～べからざる
6. ～まじき

14 課 話題・評価の基準..... 62

1. ～ときたら
2. ～ともなると・～ともなれば
3. ～ともあろう
4. ～たるもの(は)
5. ～なりに

15 課 比較対照..... 66

1. ～にひきかえ
2. ～にもまして
3. ～ないまでも

16 課 ^か 結末・^{けつまつ} 最終の^{さいしゅう} 状態^{じょうたい} 70

1. ～に^{いた}至^{いた}って・～に^{いた}至^{いた}っても
2. ～に^{いた}至^{いた}っては
3. ～始^{しまつ}末^{まつ}だ
4. ～っばなしだ

^{もんだい} 問題(1 課～ 16 課) 74

17 課 ^か 強調^{きょうきょう} 76

1. ～たりとも…ない
2. ～すら
3. ～だに
4. ～にして
5. ～あつての
6. ～からある・～からする・～からの

Ⅲ ^{しゅかん} 主観^のを述べる☆☆☆

18 課 ^か 主張・^{しゅちよう} 断定^{だんてい} 80

1. ～までもない
2. ～までだ・～までのことだ
3. ～ばそれまでだ
4. ～には^あ当たらない
5. ～でなくてなんだろう(か)

19 課 ^か 評価・^{ひよう} 感想^{かんそう} 84

1. ～に^た足る
2. ～に^た堪える／～に^た堪えない
3. ～といったらない
4. ～かぎりだ
5. ～^{きわ}極まる・～^{きわ}極まりない

6. ～とは

20 課 ^か 心情・^{しんじよう} 強制的^{きやうせいてき} 思い^{おも} 84

1. ～てやまない
2. ～に^た堪えない
3. ～ないではすまない・～ずにはすまない
4. ～ないではおかない・～ずにはおかない
5. ～を^{きん}禁^えじ得ない
6. ～を^よ余儀^ぎなくされる／
～を^よ余儀^ぎなくさせる

^{もんだい} 問題(1 課～ 20 課) 92

Ⅳ ^{ぶんぼうけいしき} 文法形式^{せいり}の整理

- A ^{どうし} 動詞^いの意味^みに着目^{ちやくもく} - 1 94
- B ^{どうし} 動詞^いの意味^みに着目^{ちやくもく} - 2 98
- C ^{ふる} 古い^{ことば} 言葉^{つか}を使った^い 言い方^{かた} 100
- D 「もの・こと・ところ」を
使^{つか}った^い 言い方^{かた} 102
- E ^{ふた} 二つの^{ことば} 言葉を^{くみ} 組にする^い 言い方^{かた} 104
- F ^{じョし} 助詞・^{ふくごうじョし} 複合助詞 106
- G ^{ぶんぼうてきせいしつ} 文法的性質^{せいり}の整理 108

^{だい} 第2部 ^{ぶん} 文^{ぶん}の^{ぶんぼう} 文法2

- 1 課 ^か 文^{ぶん}の^く 組み立て^た - 1
決^きまった^{かたち} 形 112
- 2 課 ^か 文^{ぶん}の^く 組み立て^た - 2
名詞^{めいし}を^{せつめい} 説明する^{けいしき} 形式 114
- 3 課 ^か 文^{ぶん}の^く 組み立て^た - 3
接^{せつ}続^{ぞく}に^{ちゆうい} 注意 116

だい ぶ ぶんしょう ぶんぼう
第3部 文章の文法

1 課	じ せい 時制.....	120
2 課	じょうけん あらわ ぶん 条件を表す文.....	124
3 課	してん うご しゅだん 視点を動かさない手段 - 1 どうし つか かた 動詞の使い方、 じ どうし た どうし つか わ 自動詞・他動詞の使い分け.....	128
4 課	してん うご しゅだん 視点を動かさない手段 - 2 「～てくる・～ていく」 つか わ の使い分け.....	132
5 課	してん うご しゅだん 視点を動かさない手段 - 3 うけ み し えき し えきうけ み 受身・使役・使役受身 つか わ の使い分け.....	136
6 課	してん うご しゅだん 視点を動かさない手段 - 4 「～てあげる・～てもらう・ ～てくれる」の使い分け.....	140
7 課	し じ ひょうげん 指示表現 「こ・そ・あ」 つか わ の使い分け.....	144
8 課	「は・が」の使い分け.....	148
9 課	せつぞくひょうげん 接続表現.....	152
10 課	しょうりやく く かえ い か 省略・繰り返し・言い換え.....	156
11 課	ぶんたい いつかんせい 文体の一貫性.....	160
12 課	はなし なが かんが 話の流れを考える.....	164

も ぎ し けん
模擬試験

だい かい 第1回.....	170
だい かい 第2回.....	174

さくいん 索引.....	178
-----------------	-----

ほんしょ　つか　かた 本書をお使いになる方へ

■本書の目的

ほんしょ　い　か　てん　おお　もくてき
本書は以下の2点を大きな目的としています。

- ①日本語能力試験N1対策：N1の試験に合格できる力をつける。
- ②「文法」能力の向上：試験対策にとどまらない全般的な「文法」の力をつける。

■日本語能力試験N1文法問題とは

に　ほん　ご　のうりよく　し　けん　ぶんぼうもんだい
日本語能力試験N1は、「言語知識・読解」（試験時間110分）と「聴解」（試験時間60分）の二つに分かれており、文法問題は「言語知識・読解」の一部です。

ぶんぼうもんだい　い　か　みつ　ぶん　わ
文法問題はさらに以下の三つの部分に分かれます。

- I　文の文法1（文法形式の判断）
- II　文の文法2（文の組み立て）
- III　文章の文法

■本書の構成

ほんしょ　い　か　こうせい
本書は、以下のような構成になっています。

問題紹介

じつりよくようせいへん　だい　ぶ　ぶん　ぶんぼう 実力養成編　第1部　文の文法1

- I　ことがらを説明する☆
- II　主観を含めて説明する☆☆
- III　主観を述べる☆☆☆
- IV　文法形式の整理

だい　ぶ　ぶん　ぶんぼう 第2部　文の文法2

だい　ぶ　ぶんしょう　ぶんぼう 第3部　文章の文法

模擬試験

い　か　しょうさい　せつめい
以下に詳細を説明します。

問題紹介

じつりよくようせいへん　だい　ぶ　ぶん　ぶんぼう 実力養成編　第1部　文の文法1

し　けん　がいよう　けいしきべつ　かんたん　かいほう　し　ぜんたいざう　がくしゅう　はじ
試験の概要と形式別の簡単な解法を知り、全体像をつかんでから学習を始めます

N1レベルの文法形式を意味機能別に学習します。どんな文脈でどのように使うか、どんな文法的性質を持っているか、どのように整理して覚えるのが効率的かなどを例文と解説を通して学びます。各課に確認の練習問題(a～cの中から最も良いものを選ぶ)があります。また、4課ごとに学習した課までの確認問題